



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 思考の整理学
外山滋比古 著 筑摩書房
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2017年2月1日 Vol. 172
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

フィンテック

最近、新聞や雑誌で見かけることが増えてきた「フィンテック(FinTech)」という言葉。まず、フィンテックはどういう意味かというと、これはファイナンス(Finance)とテクノロジー(Technology)の2つを併せた造語です。日本語だと金融ITとか、金融テクノロジーと略されることもあります。

フィンテックとして一番有名なのがモバイル決済です。iPhone や Android 携帯などに小さな器具を取り付けるだけでクレジットカード決済が出来る、Square や楽天スマートペイなどが有名です。

また、携帯電話と電子マネーの融合であるおサイフケータイ、そして銀行振込みがネット経由で出来るネットバンクなども、フィンテックの走りと言えそうな感じで、加えて世界を席巻しているビットコインも、ITがあったからこそ生まれた通貨と言えます。このような感じでITを駆使することで金融をより身近なものにしようというのがフィンテックという考え方になります。

LINE や Facebook 経由でお金を送金できるようになったり、指紋認証だけで店頭での支払いができるようになったりと、今後もフィンテック分野の技術革新が行われていくことにより、世の中がもっと便利になっていく可能性が大きくなります。

最近、『逃げるなら早めに！このままでは銀行が潰れる【最前線レポート】まず信金、地銀、そしてメガバンクへ』という記事を目にしました。その中で、フィンテックと金融機関の未来について次のように書かれていました。「これまでの銀行の最大の強みは、顧客からの信頼の上で資金の流れを見られることでした。カード決済をどれくらい使っているか、家賃はどう払っているか、金融資産はいくらあるかといったデータを蓄積していた。これは銀行が決済に使われているから得ていた情報で、こういったデータを元に金融商品の売り込みなどができていました。ところ

が、フィンテックによって、資金の流れが銀行に見えなくなるという事態が起こります。すでに海外では銀行の口座ではなく、スマホを通じて給料を支払う仕組みができています。グーグルやアマゾンが決済のやり取りのすべてを抱え込むようになれば、銀行はおカネの流れの外に置かれてしまいます。近い将来、銀行がいなくなる可能性にリアリティがありますね。



世界一貧しい大統領

“世界一貧しい大統領”として注目を集めたのが、南米ウルグアイの第40代大統領ホセ・ムヒカ氏である。ムヒカ大統領を一躍有名にしたのは大統領時代の2012年リオ会議でのスピーチです。

貧富の格差が広がり貧困が大きな問題となっている現代のグローバリズム、消費主義社会に対して「現代に至っては、人類が作ったこの大きな勢力をコントロールしきれていません。逆に、人類がこの消費社会にコントロールされているのです」「残酷な競争で成り立つ消費主義社会で『みんなの世界を良くしていこう』というような共存共栄な議論はできるのでしょうか?」として「私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです」と訴えかけました。ウルグアイのような小国の大統領は最後の演説者でした。そして、彼のスピーチの時にはホールにはほとんど誰もいませんでした。

ムヒカ大統領は貧困家庭に生まれ、家畜の世話や花売りなどで家計を助けながら育ちました。60年代に入って都市ゲリラ組織「ツパマロス」に加入し、72年に逮捕された際には、軍事政権が終わるまで13年近く収監されました。

ウルグアイ大統領選挙に当選した後も、大統領公邸には住まず、首都モンテビデオ郊外の質素な農場に妻と住み、菊を栽培しつつまじやかな生活を送りました。彼はその資産の80%を寄付し、個人資産は約18万円相当の1987年型フォルクスワーゲン・ビートルのみ。寄付の理由は、「自分が得たお金を貧しい人と企業家のために役立ててもらいたいから」だそうです。裕福な環境下ではなく、貧しく厳しい状況の中でやっている生き方がとても心に突き刺さりました。



【座右の銘にしたい名言】



未来は、自分の夢の素晴らしさを信じる人のものである。

(F・ルーズベルト/政治家、第32代アメリカ大統領)